

宿縁

四月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 中原寺

TEL 〇四七―三七二―〇二九二
FAX 〇四七―三七二―〇二六二

人生究極の

抛りどころ



皆さんは「漂流郵便局」という郵便局があることをご存じですか。

瀬戸内海に浮かぶ小さな島「栗島」に、行き先のない想いを綴った手紙が集まる世界でたった一つの本物ではない郵便局です。

「いつかの どこかの 誰か 宛」

「漂流郵便局」は木造の旧郵便局舎を改造して昨年暮れに開設されました。ここには届けたくても届けられない手紙(ハガキ)が各地から届きます。手紙の宛先は、故人や未来の子孫、思いを伝えることができなかつた初恋の人、自分、などさまざまですが、亡き

人への想いが一番多いそうです。

東日本大震災から十三年がたち、津波等による死者・行方不明者は22、318名。また今年一月の能登半島地震は甚大な被害となり、建物の倒壊や津波等による死者は241名と報じられています。

それぞれの遺族関係者にとつてはその死別や悲しみは一樣ではありません。なぜあの時に！なぜ一言が！と、取り返しのない無念さはどんなに月日が経過しても消え去るものではないでしょう。

『漂流郵便局』とは、生きる上の嘆き苦しみを一時の癒しとなる良いアイデアだと思います。

2013年の瀬戸内国際芸術祭の作品の一つとして久保田沙耶さんが制作したそうです。久保田さんは『漂流郵便局』の「局員」を勤め、かつて栗島郵便局で実際に局長を務めていた中田さんが漂流郵便局の「局長」をしているのだそうです。

きつと局止めの一通一通のハガキには深い悲しみとやり場のない憂いが詰まっています。

でもいつの日か、そのやり場のない、誰もこのわが身に代わることのない事実と受け止めて、新たに自分が前へと進む道を探し当てなければなりません。

前へと一歩踏み出す行動は、この私が自らの能力を頼って為すことと思いがちです

がそうではありません。誰もが世間で生きるすべを教えられ、それを信じて毎日を生活していたのですから。

でも今そのことが信じられなくなつたから、どうにもならぬ悲嘆に崩れるしかない私があるのではないのでしょうか。誰のせいでもありません。私の勝手な思い込みの結果といわざるを得ません。

人間世界の使う言葉や行為は「違法」です。この場合の「法」とは物事をする仕方ではありません。「真理」つまり「仏の教え」理法です。つまり違法とは人間勝手に作った法律です。だから国や民族にはそれぞれに作った法律があつて他の国や他の民族にはそのまゝ通用致しません。「真理」はこれらと違って普遍性のもので。ニュートンがリンゴが木から落ちたのを見て「万有引力」つまりすべての物体間に作用する引力を発見しましたが、ニュートンがそれをいわなくてもその法則は厳然としてあるものなのです。このことからしても釈尊が目覚めた「真理」は「法」はすべてのものに通ずる教えです。

わが師親鸞聖人は、
「帰命無量寿如来 南無不可思議光」
(無量寿如来に帰命し 不可思議光に南無したてまつる)と究極の抛り所を顕してくださいました。

究極の抛り所となつた阿弥陀仏は固有名詞ではなく、いのちと光という二つの姿(はたらき)に分けて示しています。無量寿とは限りのないのちという意味であり、不可思議光とは人間の思いの及ばない光明、すなわち無量光というに等しい。南無とはインドの言葉で、これを訳して帰命というのです。こ

れは、阿弥陀仏という仏の内容が、無量寿無量光というその名の由来の中に示されていることを語つたものです。では、無量寿すなわち限りのないいのちとは、いったい如何なるものでしょうか。

私たちのいのちは、すべて限りあるものです。それぞれの生年月日にこの世に生をうけ、やがては死ぬべきものとして生きていくのが私たちのいのちの姿です。しかし、そのいのちの由来というものを考えてみれば、私たちは次第に自分のいのちの背後にある世界にさそわれていくことになるでしょう。

生から死へと向かう人生の中で、ただ一時の花のみを追い求めて過ごす人は、いのちそのものの流れの上に「自分」というものを勝手に築き上げ、生と死をつらぬきたいのちの真実に目を開くことがありません。そして、自分のいのち、あの人のいのち、動物のいのちというように、自と他のいのちをバラバラに区別して止むことがあります。阿弥陀仏が無量寿といわれるのは、こうしたいのちの分け隔てを突き破つて、この世のあらゆるいのちの根源が無限のいのちの広がりとなつてつながつていることをあらわしたものです。つまりこの宇宙のあるがままの姿を示したものにほかなりません。

この阿弥陀が、また無限の光であるというのには、それは生と死のはざまを揺れ動く小さな「我れ」に閉じこもつていた私たちに對して、無限のいのちを知らしめようとするはたらきがすでに放たれていることを示すものです。この光に出遇わなければ、私たちの心の暗闇はついに破られることなく終わつていたことであらましよう。

【寺灯雑記】

○婦人会が教区研修会に参加

3/1

コロナ以前まで例年開催されていた、東京教区仏教婦人連盟の研修会が築地本願寺にて5年ぶりに開かれました。当寺から参加の14名含む、300名以上の方々が関東各地から集まりました。

研修は2部構成で、はじめに横須賀市専福寺の照本さおり師より、「どうして思い通りに生きられないのでしょうか」との講題でお話がありました。まず、「あなたの知覚(目や心)は正しく物事を見せていますか」という質問がなされ、多くの人は「感じて(見えて)います」という答えが出ましたが、ご講師のお話を聞いていくうちに、それぞれが自分のとらえ方や思い込みで判断していたことに、気づかされました。自らの価値観で生きている私たちが、ほとけ様のはたらきを通して、自身自身の真実の姿をみつめていくことが大切である、とお聞かせいただきました。

後半は静岡市教務寺前住職の南條宏師より、仏教讃歌のご指導があり、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年を記念して作成された「仏のみ名を聞きひらき」を参加者一同心ひとつに唱和いたしました。

○宿縁廟法要、彼岸会法要が勤まる

3/20

冬に逆戻りしたかのような今年の春の彼岸会法要をお勤めいたしました。

屋外での法要ということで天候が心配されましたが、宿縁廟法要は新たに十三名の

たの分骨が納骨されました。

本堂での彼岸会法要は、仏説阿弥陀経の読経に続き、横浜市善行寺の成田真二郎師より、ご法話がありました。穏やかな語り口で、浄土真宗のお彼岸の意義と阿弥陀如来の先手の救い(私が頼むより先に救いのはたらきが届いている)をお伝えくださいました。



【仏事Q&A】

Q、浄土真宗ではお釈迦さまをご安置されないのですか？

浄土真宗は、阿弥陀如来のはたらきのみによつて救われる教えですから、ご安置する仏さまも阿弥陀如来一仏となります。また本堂の内陣(ないじん)にあるお莊嚴は、阿弥陀如来のお浄土を表したものです。

親鸞聖人が著された「正信心仏偈」(「正信偈」)には、「如来所以興出世 唯説弥陀本願海(如来、世に興出したまふゆゑは、ただ弥陀の本願海を説かんとなり)」とあります。親鸞聖人は、お釈迦さまをはじめあらゆる仏さまがこの世に現れてくださったのは、すべてのものを平等に救う阿弥陀如来の願い(本願)をただ説くためであったと述べられています。

お釈迦さまのお姿は目に見えないけれども、いま私たちはお釈迦さまの説法に出あっているのです。そして阿弥陀如来の本願の救いは、お釈迦さまの説法によつて、私たちに伝えられているのです。

『仏事Q&A 浄土真宗本願寺派』

【行事・法座のご案内】

☆子ども花まつり(お釈迦さまの降誕会)

*四月七日(日) 十時半

仏さまのお話、お線香づくりに餅つきなど予定。

おみやげも用意して待っています。

参加無料。



○婦人会法座

*四月七日(日) 一時半

御文章に学ぶ(五帖第四通) 前住職

○壮年会法座

*四月七日(日) 一時半

七高僧について(龍樹菩薩) 住職

○子育てサロン(パンダっ子)

*四月八日(月) 十一時~十四時

昼食を用意しています。

○無量寿経解説(親鸞セミナー)

*四月二十日(土) 二時

開催日にご注意ください。

○入門式

*四月二十一日(日) 一時

受式されるかたは十二時半までにお越しください。

○常例法座

*四月二十一日(日) 一時半

法話：熊原博文師(戸田市 正善寺)

○築地本願寺二法要団体参拝

*四月二十八日(日)

都合により参拝日を変更いたしました。

【今月の掲示板のことば】

亡き人たちが
人をつなぐ役割を
果たしてくれる